

Hirano

Senior High School

Attached to

Osaka Kyoiku University

大阪教育大学附属高等学校 平野校舎

SGH SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

平成27～31年度文部科学省指定スーパーグローバルハイスクール





未知の領域に怯まず、考え、行動し、飛躍する。

未知なるものに怯むことなく、出会いや刺激を糧に変えて、未来の設計図を描く。

平野校舎は、それを可能にする多彩なプログラムを提供します。3年後、きっと鮮明なロードマップが完成しているはずです。



Hirano's 3 Educational Policies

生涯にわたって活用できる能力や個性の育成を目指して、3つの教育方針のもと、豊かな学びの環境を整えています。

少数精鋭

知的刺激を広げ、可能性を伸ばす。

1学年120名という学校規模は、真摯に勉学に打ち込める最適な学習環境です。教科の授業以外にも、SGHのプログラムや様々な学校行事、部活動など、一人ひとりが主役となり、また、本気になる数多くのステージを用意しました。個性豊かな生徒たちが切磋琢磨するなか、それぞれの可能性を大きく伸ばします。

創造探究

課題と向き合い、未来型の思考・行動を高める。

「各界の第一人者による講義」「海外での研修や国際交流」「様々な研究手法を学びながら取り組む課題研究」…。SGHだからこそ実現するホンモノとの出会いと深い学びが、何事にも諦めることなく解を求める探究心を育み、課題解決力や論理的思考力など、グローバル・リーダーに必要な「21世紀型能力」を高めます。

自主自立

自ら考え、仲間とともに目的を達成する。

学校行事のほとんどが生徒たちの手によって企画・運営されます。創立以来大切にされてきた「自主自立」の校風のもと、自分たちがから立案したプログラムを完遂するため、全員で糸口を見つけて解決していく。そのような、チームで創りあげる行動力と、社会人として自立・自律する実践力を身につけます。

個を尊重する、独自の教育プログラムの数々。

生徒一人ひとりの成長や好奇心に合わせて、カリキュラムを臨機応変に組み立てるとともに、将来性や個性を見極めて、きめ細やかな進路指導を行っています。

小規模校だからこそできる対応で、生徒の成長をサポートします。



小規模校だから、多様なニーズに対応できる

平野校舎の一番の特徴は、生徒・教師・保護者の距離が近いこと。1学年3クラスという小規模校のメリットをいかして、アットホームな雰囲気なかでも切磋琢磨しながら、勉学に励むことができます。教育熱心な教師陣が、一人ひとりの個性を伸ばす学習指導や進路指導を第一に考え、保護者とも連携しながら、個々の成長をしっかりとサポートします。

知的好奇心に応えるハイレベルな授業

すべての教師は毎日の授業を大切にすることを重視し、基礎基本から難関大入試の対応まで、ハイレベルな授業を実施。毎時間のように電子黒板やタブレットなどを活用しながら、効果的・魅力的な授業を展開し、主体的、対話的な学び、そして深い学びへと導きます。また、毎月隔週土曜日は4限授業を行うほか、国・数・英では習熟度別授業や少人数制授業も導入。長期休暇や早朝・放課後、土曜日なども基礎力充実・入試対策のための補習を開講しています。



21世紀型能力を追求するカリキュラム ■教育課程(平成30年度入学者)

1年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35						
共通	国際総合										現代社会		数学Ⅰ	数学Ⅱ	物理基礎	化学基礎	生物基礎	体育	芸術	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ	英語Ⅴ	英語Ⅵ	英語Ⅶ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ		
2年	国際総合										現代社会		数学Ⅰ	数学Ⅱ	物理基礎	化学基礎	生物基礎	体育	芸術	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ	英語Ⅴ	英語Ⅵ	英語Ⅶ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	
3年	国際総合										現代社会		数学Ⅰ	数学Ⅱ	物理基礎	化学基礎	生物基礎	体育	芸術	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ	英語Ⅴ	英語Ⅵ	英語Ⅶ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ	英語Ⅷ

□は学校設定科目です。SGH校として「総合的な学習」において、国際的な課題に関する課題研究や英語運用力の育成等に取り組みます。



独自の教育で、新しい大学入試に対応

ますます進展するグローバル化に対応して、新しい大学入試では、論理的な思考力や表現力、課題発見・課題解決力などが求められます。これまでも実施してきた「専門家による授業」や「課題研究」を、SGH指定を機にさらに拡充。ディベートや討論、プレゼンテーション、論文作成など、多様な学習も一層充実させて、「21世紀型能力」をさらに高めていきます。

1年生から始まる、丁寧な進路指導

本校では、現役生の進路探しを卒業生が応援。1年では、各界で活躍する卒業生による「キャリアガイダンス」を、2年では、大学進学に向けて「学部・学科ガイダンス」を実施し、あわせて、卒業生の合格体験談や学習方法のアドバイスも聞くことができます。また、大阪大学等を訪問し、授業や実験などを体験できるカリキュラムも用意。学習のマイルストーンとして、各学年で校外模擬試験を受験する機会も設けています。

夢の実現に向けて、進学後も伸びる力を

3年での「進路ガイダンス」は、生徒を対象にほぼ毎月、保護者を対象に年4回程度実施しています。大学進学後もさらに意欲的に学び、社会でも十分に活躍できるように、各大学・学部の特徴や実績もふまえながら、一人ひとりの志望や適性を第一に考えて指導します。



過去3年間の主な進学先

国立大学など	進学先
公立大学など	東京大、京大、北海道大、東北大、筑波大、名古屋大、大阪大、神戸大、大阪教育大、奈良女子大、大阪市立大、大府南立大、神戸市外大、滋賀医科大学、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学、広島大、岡山大、九州大、防衛医科大学
私立大学	慶応大、早稲田大、中央大、東京理科大学、上智大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大、近畿大、甲南大、東京慈恵会医科大学、大阪医科大学、京都薬科大、大阪薬科大、神戸薬科大

海外へ飛び出して、 21世紀型の探究心を育てる。

知識技能の習得だけでなく、豊かな感性・教養を育むこと、そして旺盛な好奇心を養うことで、世界を舞台に活躍できる人材へと成長することを目指します。

そのために使える英語力の養成や、国際交流を重視したカリキュラムを用意しています。



「ホンモノとの出会い」が、生徒を大きくする

本校では、大学・企業等で活躍する専門家の講義や、阪大生物学実習をはじめとする大学での実験・実習等、より高度な学びに参加する機会がたくさん用意されています。

さらに、韓国高校生との河川共同調査や、タイ・カンボジア・カナダでの研修、台湾高校生との相互訪問等、書籍や映像では得られない、海外での貴重な学びや体験を手に入れることが可能です。

ホンモノに出会い、刺激を受けることで、知的探究心を高め、確かな学力とたくましい人格の形成を実現します。

「使える力を高める、英語教育

外国人教師3名を含む本校教師陣が、基礎基本の学習はもとより、ペアディスカッションやパラグラフライティング、即興型ディベートやプレゼンテーション、論文作成など、様々なスキルを高めるプログラムを用意。ICレコーダーや端末ソフトなども活用しながら、大学入試を突破する英語力と「聞く」「話す」「書く」の4技能を高める授業を実施しています。

また、毎年GTECを受験し、3年間の英語力の伸びを継続して測定しています。

Voice

高校生パラメンタリーディベート世界交流大会でPOI賞を受賞

岡本 沙良武ハミッドさん (3年・44期生)

昨年1月、第2回PDA高校生パラメンタリーディベート世界交流大会に出場しました。大会では、選抜された国内6チームと海外からの10チームが参加。同じ世代の人たちが3日間わたって、自分の意見を積極的に英語で伝えあいました。ディベートのよい点は、どこか国や地域の人でも英語を使って考えを共有し、自分の価値観が広げられるところです。これからも、一層、自分の考えを伝える力を高めたいと思います。



「国際交流を通して人間力を磨く

本校と協定を結ぶ、トリナムウドムスク高校(タイ)と高雄師範大学附属高級中学(台湾)。この2校の高校生と相互訪問やSkypeでのやりとりを通して交流を深めています。

また、海外への留学についても積極的に応援。文部科学省の「トビタテ！留学JAPAN」では高い合格率を誇り、平成28年度は3名、29年度は5名が、それぞれ自ら企画したプランをもとに海外に飛び出しています。



時間の使い方を工夫できる校風だから、 留学も充実した時間に

足田 美麻里さん (2年・45期生)



昨年夏休みに、文部科学省の「トビタテ！留学JAPAN」に合格しマレーシアに行きました。現地では英語学習だけでなく、友達を作り、自然に触れ、様々な食べ物も教えてもらい、いろんな国からの留学生たちと一緒に時を過ごすことで、人を思いやる気持ちや友達の大切さなどを学びました。わずか2週間でしたが、たくさんの経験をすることができたのは、自分で時間の使い方を工夫することのできる本校の環境があったからだと思います。

Voice

大学の研究活動で、 ディベートの経験が役立ちました

森瀬 敬之さん (40期生・京都大学薬学部)



ディベートの授業を通して、たった一つの論題でも様々な視点があることが分かり、もの見方がずっと広がったように思います。このような経験は大学での研究活動にも役立つと感じています。高校までの理科の実験は予想通りの結果が得られる場合が多いですが、研究室の実験はそうならないことが多いです。実験の結果が予想と異なったとき、その結果をどう解釈するかを考える上で、様々な視点から物事を考えることが必要になります。

生徒自らが企画・運営することで、 発想力や行動力を高める。

文化祭や体育祭、研修旅行、遠足などの行事を、生徒が主体となって企画から運営まで担当。協力しながら課題を解決することで、将来の社会生活にいきる実践力を習得していきます。

4 オリエンテーション合宿(1年)

クラス・学年の親睦と高校生活のオリエンテーションを目的に、2泊3日で実施。ハイキングやBBQ、クラス活動や学年レクリエーションなど、学年全員がすぐに仲良くなります。



7 海外研修旅行(2年)

4泊6日で2年生全員がタイを訪問。旅行委員が企画した行程にもとづいて観光や文化体験を行います。また諸施設への訪問や現地の高校生との交流も行います。



7 沖縄伊平屋島体験学習(1年希望者)

沖縄本島に近い離島の古民家に宿泊します。筏づくりやシークワサーを探ってのジューズづくり、ダイビングや海釣り、サイクリングなど、沖縄の自然や生活に浸りながら共同生活を楽しまします。



9 文化祭

テーマ設定から運営まで、すべてを生徒が企画して実行していきます。1年生の舞台発表をはじめ、各クラスの模擬店や飲食店、部活動、有志の発表など、生徒たちは毎年工夫を凝らして、文化祭を盛り上げていきます。



生徒を信頼して任せていただき、
楽しさ・やりがいを実感

松田 結莉愛さん(文化委員、2年・45期生)



文化委員会は主に文化祭を企画・運営し、私が率いる総務では、みんなが楽しめる文化祭にするために、いろいろな企画を考えます。大変ですが、先生が生徒を信頼して任せてくださいますので、楽しくてやりがいがあります。文化祭の1日目は舞台発表を、2日目は模擬店と飲食店を催します。それぞれに工夫が見られて嬉しいです。

今後の学校生活や人生に活かせる、
最高の体育祭に!

大野 颯真さん(体育委員長、2年・45期生)



本校の「行事で育つ」をモットーに、体育委員長として生徒全員が何かを担い、今後の学校生活、人生に活かせるような最高の体育祭にしたいと思っています。本校の体育祭には、伝統の応援団やクラスで協力して競うプログラムがたくさんあります。そこで同結力を思い達成感を感じられるよう、自分たちし力作れない体育祭を盛り上げていきます!

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

- 入学式
- 始業式
- オリエンテーション合宿(1年)
- 遠足(2,3年)

- 球技大会

- 芸術鑑賞

- 海外研修旅行(2年)
- 終業式
- 沖縄伊平屋島体験学習(1年希望者)

- カナダ語学研修(希望者/隔年)
- 始業式

- 文化祭

- 体育祭

- スクート講習会(1年)
- 始業式
- 台湾交流
- 大塚大学生物実習(希望者)

- 始業式
- 人権学習
- 球技大会
- 海外フィールドワーク(希望者)

- 卒業式

- 終業式
- 台湾交流

10 体育祭

競技の決定、当日の運営などを体育委員会が中心となって行い、生徒たちで体育祭を創り上げていきます。伝統ある応援団の演奏やダンスの迫力には定評があります。自分たちで考えて行動することで、自主自立の力が育まれています。



Column

少ない校則・自由な校風

平野校舎の生徒手帳には、校則の記載はわずかしかありません。創立以来、生徒一人ひとりが、自分を律しながら「校則のない学校」をつくりあげてきました。「ルールがあるから守る」のではなく、「ルールを設けずに自由な校風を維持する大切さ」を理解し、尊厳し続けているからこそ、生徒同士で互いに高めあえる校風がつけられているのです。

部活動





世界に貢献するグローバル・リーダーへ。



SGHの活動を通して、多面的に“いのち”と向き合う、特別な3年間です

本校SGHのテーマは、「多面的に“いのち”を考えるグローバル・リーダーの育成」。最も普遍的な価値をもつ“いのち”を取り上げ、「医療・保健」「防災・減災」「格差・貧困」の3つの研究領域において生徒一人ひとりが研究に取り組みます。

また、国内・海外で行う研修や、英語によるディスカッション、様々な国の高校生との交流などを通して、これからますます進展するグローバル社会で必要な「課題解決力」や「コミュニケーション力」などを獲得します。

“いのち”に関わる3つの研究領域

医療・保健

国内外の医療・保健制度に関わる課題を取り上げ、“いのち”をつなぐ共助・共生社会や医療・保健のあり方を追究する。

防災・減災

自然災害が起こる仕組みやその対策などをふまえて、国内外での“いのち”を守るまちづくり、くにつくり・ひとづくりを考察する。

格差・貧困

格差や貧困の現状を知り、行政、NPO、グローバル企業などの取り組みを研究。“いのち”を支える共助・共生社会の実現を目指す。

Voice



生徒全員が対象のSGHを通して、問題解決力や実践力などが確実に伸びています

松田 雅彦 氏 (SGH推進委員長)

本校SGHのメリットは対象が生徒全員であり、そろってSGHのプログラムを学習できることです。大阪教育大学や大阪大学、京都大学、関西学院大学などの協力も得ながら編成したプログラムは、誰にでも楽しく学べるようになっています。課題研究や英語を用いた諸活動、国内外での研修などを通して、生徒たちの課題解決力や実践力、コミュニケーション力が確実に伸びていることを実感しています。

思考力や実践力を重視した、平野校舎SGHの3つのプログラム

知識を深めるだけに留まらず、自ら考え提案し、実行する。平野校舎SGHでは、そのような実践力を高めるため、全生徒を対象に次の3つのプログラムを設定。おもに総合的な学習の時間を使って様々な学びの機会を提供します。

アジアの広いフィールドで実践する「課題研究」

3つの研究領域「医療・保健」「防災・減災」「格差・貧困」のいずれかに関わる研究テーマを自分たちで決め、研究活動に取り組みます。1年では、様々な手法を学びながら、大阪や日本の社会課題を取り上げ、また、2年では、アジアに視点を移し、その課題について研究を深めます。最後に3年では、それらの成果を日本語や英語の論文にとめます。



ホンモノを体験する「国内研修、海外研修」

課題研究を進めるときには、書物やインターネットでの情報収集だけでなく、実際に現地に行って話を聞き、調査することが重要です。本校では、海外研修旅行(タイ、2年全員)や海外フィールドワーク(カンボジア、1、2年希望者)を通して海外の現状を実感。国内外での国際会議などにも参加することで、ホンモノを体験します。



「英語によるディスカッション」「海外の高校生との交流」

海外留学生との交流や即興型英語ディベート、課題研究の発表や論文作成などを通して、英語で表現・発表・議論する機会を数多く設けています。また海外協定校の高校生とは、海外研修旅行中に訪問・交流するほか、Skypeを用いて日常的に交流します。



スーパーグローバルハイスクール(SGH)とは(文部科学省HPより一部引用)
グローバル化が進むなか、国際化を進める国内の大学や企業、国際機関等と連携して、グローバルな社会課題を発見・解決し、様々な国際舞台で活躍できるグローバル・リーダーを育成する学校として、文部科学省が指定(全国12校)。各校がテーマ別研究分野を指定しながら「社会課題に対する関心と深い教養」や「問題解決力」「コミュニケーション力」など、国際的教養の習得を図ります。SGHが主に理科系分野を対象とするのに対して、SGHは文科系、理科系以外の分野を研究対象としています。

1 年次

Approach

課題研究[Approach]

大阪や日本の課題に迫る。

大阪や日本の様々な社会課題を自分自身の問題と捉え、グループごとにテーマを設定。研究の様々な手法を学びながら、フィールドワークや交流を通じて、研究を深めます。

1学期

2学期

3学期

課題発見のための講習会

現代の日本や大阪には、どのような課題があり、なぜ問題になっているのか。3つの研究領域「医療・保健」「防災・減災」「格差・貧困」について、大学や企業、行政の専門家の講義を聴き、課題を発見して解決することの意義を学びます。



スキルアップ講習会

課題研究を進めるにあたり、研究の心構えについて学ばほか、情報の集め方、思考の深め方、課題設定の方法、チームビルディング、フィールドワークの方法など、課題解決に必要なスキルを学習します。



大阪フィールドワーク

大阪周辺の様々な機関・施設に出向き、研究テーマに関する情報収集、聞き取り調査を行い、現場でしか分からないことを学びます。フィールドワーク後の報告会では、各グループの体験を共有しあい、さらに思考を深めていきます。



全国SGH校との交流

全国SGH校の発表会やシンポジウムに参加する機会を設けていきます。同じ研究を進める高校生と交流、意見交換することで、良い刺激を受け合うことができます。平成28年度は早稲田大学高等学院などと交流しました。



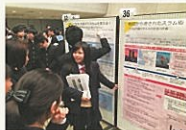
日常のグループでの研究活動

大学の先生や大学院生のアドバイスを受けながら、グループで研究を深めます。さらに、シグソ法による「グループ討議」「領域間討議」により、多面的に「いのち」について考えていきます。



SGH課題研究発表会

幅広い視野と多面的な考え方を習得し、ブラッシュアップを重ねた課題研究の集大成として、1,2年生が口頭発表とポスター発表を行います。全国の大学や高校から先生をお招きし、いただいた意見を今後の研究に活かします。



2 年次

Basic

課題研究[Basic]

アジアに視点を広げ、課題を追究する。

海外研修旅行などで得た様々な知見と、世界の人々との出会いから得た学びをもとに、アジア諸国の社会課題を追究。改善に向けた提案をまとめます。

1学期

2学期

3学期

即興型英語ディベート

英語4技能を伸ばすことを目的に、大阪府立大学の中川智浩先生の協力のもと、英語の授業の中で即興型英語ディベートを実施。平成28年度、即興型英語ディベート世界交流大会では、本校生がPOI賞を受賞しています。



海外研修旅行：タイ王国

研究テーマに沿ったフィールドワークを行いながら、タイの社会や文化・風習を理解します。また協定校であるトリラムウドムスクサ高校との交流・ディスカッションにより、3つの研究領域の課題についてさらに認識を深めます。



母子手帳国際会議

母子手帳を研究するグループが、東京の田澤大学で開催された「第10回母子手帳国際会議」に参加。シンポジウムでは、カメルーン、モンゴルなど多くの国における母子手帳に関する発表を聞き、その効果と課題について学びました。



「世界津波の日」高校生サミット

国連で制定された「世界津波の日」の事業として開催された青少年国際会議に、津波対策を研究するグループが参加。「親友でも安心して遊べる町づくり」について、世界約29カ国の高校生と意見交換をしました。



カンボジア海外フィールドワーク

1,2年生の希望者が参加。カンボジア・シェムリアップを訪ね、課題研究のアクションプランを現地でも実践することで、研究のさらなる深化を図ります。本校生が提案した医療に関する啓発活動が、実際に現地で活用されています。



SGH甲子園

全国のSGH校から選抜されたチームが課題研究の成果を発表しあう大会で、大阪大学、関西学院大学、大阪教育大学が主催するイベントです。他にも、大阪大学や大阪市立大学等の発表会に参加しています。



Voice



国連での体験を通じ、実践的な英語の授業の重要性を実感

森田 花菜さん（現19年度大阪大代表代表、外務省・ユース非核特使、2年・45期生）

高校生平和大使の大阪代表として、昨年スイスのジュネーブにある欧州国連本部を訪問し、重総会議の傍聴や軍縮局で平和への思いを英語でスピーチしました。国連の公用語として英語を使う必要があり、英語を学ぶ大切さを実感しました。2年生で学ぶ英語のディベートは難しいですが、実践的で楽しい授業です。夏休みに参加する、英語のディベートの合宿も、とても楽しみにしています。

Column

グローバル化が進む医療現場について学ぶ「大阪大学セミナー」

2年生の希望者を対象に、大阪大学で開催されている授業「健康・医療イノベーション学」をビデオで聴講します。このセミナーは、大阪大学医学部附属病院・国際医療センターの協力により実現したもので、海外での医療の様子や国際医療支援の現状など、各分野の専門家による講義を通して、グローバル化が進む医療現場を学ぶことができます。「医療・保健」の領域で課題研究に取り組んだり、医療への道を志す生徒などが受講しており、聴講後は本校の単位が認定されます。

課題研究[Challenge]

国内・海外に向けて、研究成果を発信。

課題研究[Development]
(選抜された約30人)

国内・海外に向けて、研究成果を実践。

「いのち」を俯瞰する広い視野と高い視座に立ち、「いのち」に関する研究論文を日本語・英語でまとめ、3年間の学びを総括します。

発表・まとめ

研究の成果

研究論文の作成

3年生の1学期に、「いのち」に関する総括論文を執筆。2年間で深化させた研究内容をさらに昇華させ、一領域からの視点だけでなく、他領域も含めた多角的にとらえていきます。より普遍的な課題として、「いのち」を思考し、まとめます。



「いのち」に関する総括論文



大阪大学での発表会

国際的な課題について高校生に発表の機会を与える、大阪大学の国際公共政策コンファレンス。ここで研究成果を発表することは、社会課題に対する関心や、国際的素養を生徒が身につけていく一助となります。



研究成果の一つとして、ポスターを作成

地図から消されたスラム街
ゴビ山で暮らす人々

スラム街のマップ作成の経緯 (スモーク・マウンテン) の詳細のために、スモーク・マウンテンでゴビ山地帯の現地調査を実施し、さらにゴビ山の地帯のスラム街の現状を把握し、写真などの研究内容を総括してまとめた。

1. フォトリポの制作の経緯とスモーク・マウンテンの経緯

スモーク・マウンテン 現地調査の経緯
現地調査の経緯をまとめたスラム街のマップを作成し、スラム街の現状を把握し、写真などの研究内容を総括してまとめた。

2. フォトリポの制作の経緯

スモーク・マウンテン南辺のフォトリポ制作の経緯

スモーク・マウンテン南辺のフォトリポ制作の経緯

アジアの貧困、医療などの課題に向き合い、対策を考える力が高められたと思います

森 瑞樹さん (3年生・44期生)

3年間の活動を通して、世界の諸問題を自分たちの力で発見し、対策を考える力が身についたと実感しています。例えば、地震対策に特化したインドネシアの街づくり研究やバンコクのクロントーイスラムでのフィールドワークを通じて、企業と政府が防災活動や貧困層への支援を積極的に行う必要性を感じました。また、カンボジアの水上生活者に虫歯罹患率が非常に高いことを知り、正しい医療知識の普及も肝要だと思いました。その第一歩として私たちができることは、世界で起きている様々な課題に関心をもつことだと考えます。

成長の基礎づくりから大きな飛躍へ。

卒業生からのメッセージ

高校時代に経験したことは貴重な心の礎となり、社会人になった時に、大きな飛躍につながっていきます。何を学び、どう今後にかしていくのか。OBのコメントから、重要なヒントが見えてきます。

優しさや自由な校風。

高校時代はあまり優秀な生徒ではなかった。数学で0点をとったことも、135人中132番になったこともある。漠然とミュージシャンになりたいと思っていたのだが、気がつけば卒業が迫っていた。とりあえず浪人した。それでも何とか医師になり、それなりに人様のために仕事ができるのは、多分、大阪教育大学附属高等学校の中でも平野校舎だけが持つ、自由で優しい校風があったからだと思う。僕が出会う同窓生は皆、流いオンリーワンの仕事をしている。それが平野校舎なんだと思う。



荻田 和秀さん(10期生)
りんくう総合医療センター
産婦人科部長
(講師「コソドリ」のモデル)

人と人とのつながりが伝統であり、大きな財産です。

平野校舎の何よりの特徴は、小規模校であること。そのため、同級生はもとより前後の学年の人たちとの交流が盛んで、幅広く濃厚な人間関係を形成できました。このような人とのつながりが、平野校舎の伝統だと思います。私は医学部を卒業し、現在は大学院で脳神経外科医をしていて、医学部に進学した多くの同級生などと幅広い交流があります。また医療以外にも様々な分野で活躍する友人たちとの交流も頻繁であり、大きな刺激を受けています。



島島 晴彦さん(11期生)
大阪大学大学院医学研究科教授

自分のペースで過ごしたメリハリのある高校時代。

高校の成績は真ん中くらいでしたが、京都大学に現役合格し、その後助手、助教授を経て教授となり、現在では安倍内閣での参与やテレビのニュース解説の仕事もしています。平野校舎の最大の特徴は、優秀な教師陣と京都大学にも通ずる自由な校風。自分のペースでメリハリある高校時代を過ごすことができ、何物にも代えがたい、とても素敵な時代でした。生徒数の少なさもあり、濃密な友人関係に恵まれ、今でも当時と変わらない交友関係が続いています。



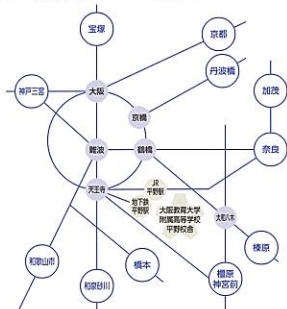
滝井 聡さん(13期生)
京都大学大学院工学研究科教授・内閣府参与

Voice



通学エリアイメージ

住居から90分以内で通えるエリアが通学範囲となっています。



所要時間の目安

JR奈良	約60分	JR大和路線	JR平野	徒歩約18分	大阪教育大学 附属高等学校 平野校舎
近鉄奈良	約65分	近鉄	地下鉄谷町線 (14分)	徒歩約5分	
大和八木	約65分	近鉄	谷町九丁目		
南海神戸三宮	約70分	阪神	地下鉄谷町線 (24分)	徒歩約5分	
JR三ノ宮	約65分	JR	天王寺		
宝塚	約70分	JR	地下鉄谷町線 (9分)	徒歩約5分	
和歌山	約80分	JR	地下鉄谷町線 (9分)		
和歌山	約90分	南海	天王寺	徒歩約5分	
権原神宮前	約65分	近鉄	大塚町		

JR大和路線
平野駅
南 約1400m
地下鉄谷町線
平野駅
南東 約400m

大阪教育大学附属高等学校 平野校舎

〒547-0032 大阪市平野区流町2丁目1番24号
TEL:06-6707-5800 FAX:06-6709-1711
<http://hirano-h.cc.osaka-kyoiku.ac.jp/>